

AFE

ASIA FUNERAL AND  
CEMETERY EXPO &  
CONFERENCE  
亞洲殯儀及墓園博覽暨會議

Asia Funeral and Cemetery Expo & Conferen

亞洲殯儀及墓園博覽暨會議

May 8-10, 2014, Macau



## 日本を特集国にマカオで葬祭コンベンション 事業レベルの高さに注目集まる

(株)ジーエスアイ 中村優作

中国・マカオのマカオ・タワー コンベンション&エンターテイメントセンターで、5月8~10日の3日間にわたり、「Asia Funeral and Cemetery Expo & Conference (AFE)」が開催された。

主催はVertical Expo Services Co Ltd (香港)。また、アメリカおよび世界39か国で1万か所以上の葬儀場・1万9,000人の会員を有する世界最大の葬祭ディレクター協会、NFDA (National Funeral Directors Association) が開催に協力した。

AFEは「国境を超えた長期的なプロフェッショナルの関係性の構築や、各国の葬祭儀礼文化および専門性を世界に紹介する」ことを目的としたアジア最大規模の葬祭コンベンションで、アジアのみならず、アメリカやオーストラリア、南アメリカ、ヨーロッパ、アフリカなど、世界中から葬祭関係者が参加するこ

とで知られる。

2008年から毎年開催され、今年で7回目。第1回のマカオ開催以降、前回までは香港で開催されていたが、今年6年ぶりにマカオにて開催された。今年の開催テーマは「持続可能な発展」で、30の国と地域から、2,250人以上が来場した。

AFEでは2010年から特集国が設定され、各国の葬祭事情を紹介してきた(10年フィリピン、11年台湾、12年オーストラリア、13年韓国)。今年は「日本」が特集国に取り上げられ、日本から多くの葬祭業関係者が参加し、講演やデモンストレーションを行なった。私たちジーエスアイは日本側窓口として、AFE開催に協力するとともに視察ツアーを主催。ツアーには12人が参加した。

本稿では、日本の業界関係者の講演・デモンストレーションを中心に、本ツアーの様相をレポートする。



開幕式典

## 今年の特集国は「日本」 業界関係者5人が講演

マカオ・タワー コンベンション & エンターテインメントセンターの Theater (講堂) を会場に、各国の葬祭事情や新たな取組みについて、14か国・地域 (アメリカ、イギリス、オーストラリア、オーストリア、コロンビア、台湾、中国、日本、ハンガリー、フィリピン、ポーランド、香港、南アフリカ、リトアニア) から23組が講演した。

今年の特集国である日本は、世界の葬祭業界において、効率的かつプロフェッショナルであり、高度に管理された業務プロセスをもつ、アジアでも有数の市場の1つと考えら



清水宏明氏の講演「首都圏の土地不足のなかで、いかに葬祭ビジネスを展開するか？」

れ、注目を集めている。

いのうえ専務井上万都里、神奈川こすもす社長清水宏明、終活カウンセラー協会代表理事武藤頼胡、アーバンフューネスコーポレーション社長中川貴之、ジーエスアイ社長橋爪謙一郎の5氏が「超高齢社会」を迎えている日本の葬祭事情や業界での取組みについて講演した。

### ● 講演 (8日)

開催初日の8日には、井上、清水、武藤の3氏が登壇した。

井上氏の講演テーマは「伝統的な葬送文化をいかにして守るか？」(8時45分～9時10分)。1913(大正2)年に創業し、100年を超える歴史をもつ老舗葬儀社として、効率重視の現代社会のなかで、葬儀という地域



井上万都里氏の講演「伝統的な葬送文化をいかにして守るか？」



武藤頼胡氏の講演「終活の取り組みと葬祭業の変化」

文化・伝統的習慣をいかに残していくのかについて講演。具体的には、人材の重要性を訴え、社員教育において、葬儀知識や技能だけでなく、経営者の思いや会社の歴史を伝えること、宗教者を交えた精神性の教育を大切にしているとしたうえで、葬儀以外の相談にも対応する市民生活支援センターや、NPOと連携した遺族支援の取組み「グリーフサポートプロジェクトおかやま」、雑誌やFMラジオを通じた情報発信など、地域社会への貢献事例を紹介した。

続いて、清水氏が「首都圏の土地不足の状況で、いかに葬祭ビジネスを展開するか？」をテーマに講演(9時10分～9時35分)。神奈川こすもすでは、首都圏に特有の状況である、



特集国「日本」を伝えるサイン

地方からの移住者の多さ、単一世帯の比率の高さ、狭い住宅事情などを背景に、火葬のみを中心にしたシンプルな葬儀の専門ブランド「ダビアス」および、自宅で葬儀を行なう安心感と葬儀式場を借りる利便性を合わせたコンセプトの葬儀式場ブランド「ダビアスリビング」を展開。不況や少子高齢化などの社会構造の変化と相俟って大きな注目を集め、全国に「ダビアス」ブランドが広まった。また『終活』についても、一般社団法人日本クオリティオブライフ協会を設立し、「終活診断士」の教育プログラムを展開。スタッフにも、終活診断士を学ばせることで、お客様との相談能力が向上し、経常利益を飛躍的に伸ばしたことを報告した。

さらに、「終活の取り組みと葬祭業の変化」と題し、武藤氏が講演（9時35分～10時00分）。11年の法人設立から3年弱で、3,000人を超える終活カウンセラーが誕生している。高齢者が不安に感じていることは多いが、相談先が多岐にわたることで、相談すること自体をやめてしまいがちな現状に対し、1人の終活カウンセラーが話を聞き、そのうえで各分野の専門家に橋渡しをするというモデルを紹介した。終活カウンセラーの取得者は葬祭業に限ったものではないが、葬祭業者が終活の窓口を開くことで、生前からのお客様との関係構築に役立て、価格以外の理由で自社を選択してもらうつながりづくりに活かせると提案した。

●講演（10日）

最終日の10日には、中川氏と弊社代表の橋爪が登壇。中川氏の講演テーマは「日本の葬祭ビジネスにおけるWEBマーケティング」（8時30分～9時00分）。首都圏の葬祭業界で



中川貴之氏の講演「日本の葬祭ビジネスにおけるWEBマーケティング」



橋爪謙一郎氏の講演「日本の葬祭ビジネスの概況」



国際会議「持続可能な発展」

3年連続売上高成長率1位を実現した戦略の2本柱として「WEBマーケティングと人材育成」について講演。WEBマーケティングについては、業界に先駆けてWEB広告に注力したことに加え、自社サイトの作成をすべて社内で行なうことにより、サイトの更新を迅速に行なえるようにした。また、人材育成については、マネジメントカンファレンスである「ネクストワールド・サミット」の主催・参加や、ロールプレイングによる社員育成などを紹介した。

そして、日本人関係者の最後の講演として橋爪が、「日本の葬祭ビジネスの概況」と題し、特集国である日本の葬儀の現状として、死亡者数・葬儀社数・火葬率などを紹介（9時00分～9時30分）。そのうえで、時代背景を通じて、地域から家庭へと

葬儀の担い手の変遷した状況や、今後の葬祭ビジネスにおける展望などを述べた。

3テーマで国際会議開催  
各国代表が論戦を展開

各国代表による講演のほか、3日間の会期中に、Theaterでは「Sustainable Development（持続可能な発展）」「New Media Forum（ニューメディア）」「AFE Green Forum（環境に優しい葬儀）」の3つの国際会議が開催された。

●国際会議1：持続可能な発展  
（8日10時15分～12時15分）

現代社会は、消費者の求めるものやビジネスを取り囲む環境が目まぐるしく変化する時代である。長い歴史と伝統を有する「葬祭業」においても、成長や発展を持続可能にする

ことが、産業を維持するために必要不可欠である。今年のAFEのエキスポ(展示会)テーマでもある「持続可能な発展」について、アメリカ・オーストラリア・日本・ブラジル・南アフリカの代表が意見を交換した。

各国の代表は、Ms. Carol Green, Counsel, NFDA Environmental Compliance (アメリカ)、Mr. Darryl Thomas, Director, Australasian Cemeteries and Crematoria Association (オーストラリア)、Ms. Gisela Adissi, Director, Grupo Primavera (ブラジル)、Dr. Lawrence Konyana, President, National Funeral Director Association of Southern Africa (南アフリカ)に橋爪謙一郎氏(日本)を加えた5人。

各国代表からは「持続可能な発展」のテーマのもとで、土葬から火葬への移行や環境負荷を下げる取り組みを

中心に論戦が展開された。これに対し、日本代表として登壇した橋爪氏は、人材教育こそが持続可能な発展のカギを握ると主張した。日本は、人口増加による土地不足、都市化、少子高齢化などを他国に先駆けて経験しているため、ハード面での変化はすでに進んでおり、葬祭ビジネスに価値を感じてもらうための人材教育というソフト面に重点がおかれている現状が、他国との比較のなかで垣間見えた。今後、高齢化を迎えていくであろう諸外国にとっても、日本の葬祭ビジネスの取組みは、先行モデルとして、より注目を集めていくであろう。

●国際会議2：ニューメディア  
(9日8時30分～9時45分)

この10年間で、さまざまな業界において、インターネットに代表されるニューメディアが、マーケティングのための最も重要なツールとな

り、大きな利益を生む源泉として、世界中に影響力を及ぼした。では葬祭業においては、どうであろうか。ニューメディアを活用するうえでの注意点と経験について、イギリス、シンガポール、ニュージーランド、ボリビアの代表が意見交換を行なった。

各国の代表は、Mr. Peter Gandy, Chief Executive Officer, Heaven Address (イギリス)、Mr. Ang Ziqian, Managing Director, Mount Vernon Sanctuary Pte Ltd (シンガポール)、Mr. Neil Little, Managing Director, Davis Funerals(ニュージーランド)、Ms. Teresa Saavedra, President, Latin American Association of Cemeteries and Funerals(ボリビア)の4人。

●国際会議3：環境に優しい葬儀  
(9日11時00分～12時15分)  
産業界のリーダーは、環境意識を

総合ユニコム 葬祭関連CD商品のご案内

5,000件の司会担当と1万人の司会指導実績から生まれた、井手一男氏監修「葬儀司会の質を高める」CDシリーズ、最新2作品!

新版・葬儀司会  
音声トレーニングCD

2010年  
7月発刊

葬送オリジナルBGM  
メモリアル／エターナル



上達への早道は、「良いお手本」を「耳」で覚えてしまうこと!

司会表現向上の速習ツールがすべてオリジナル原稿で新登場!

- 発声練習 Step1～Step4
- オリジナル帯電 5作品
- 短文ナレーション(導入文章) 15作品
- 開式前ナレーション 9作品

- CD [68:11]+収録原稿集
- 監修:有限会社エムシープロデュース
- 実演・ナレーション:橋貴美子
- 定価:本体価格28,000円+税



「聴きやすい」「ナレーションに合わせやすい」葬儀司会のBGMに最適!

- 全19曲中17曲が5～6分の作品で、長めのナレーションでも曲が途中で切れることは、ほとんどありません。
- 多様な音色による曲構成で、個性的なフューネラルホームの空間演出にもマッチ

- CD2枚組 CD1:メモリアル(全9曲) [50:38]
- CD2:エターナル(全10曲) [52:43]
- 監修:有限会社エムシープロデュース
- 定価:本体価格34,000円+税

総合ユニコムホームページ、Funeral-biz.comにて

試聴できます!

総合ユニコム 検索

総合ユニコム株式会社

http://www.sogo-unicom.co.jp/  
http://www.funeral-biz.com